

【英語】

試験は四つの大問から成る。第1問は、文法・語彙を問う客観問題と文の構成力を問う並べ替え問題である。第2問は、会話(短い会話三本と長めの会話一本)を用いた空欄補充問題である。後半の第3問と第4問は、いずれも長文読解問題である。

第3問では、五か所の空欄を適切な語で補い、続いて長めの空欄一つを文章の流れに沿った適切な語句で補うことができるかを問う。空欄以外で意味を問う箇所は一か所であり、さらに文章全体の内容一致を問う問題を一題出題する。対照的に第4問には空欄は設けず、設問は日本語を介さずすべて英語で行う。文章に出てくる順に沿って内容理解を問う設問を七題出題する。

総合的に英語の力を測ることが本試験の目的であることは当然であるが、受験生が現在有している力だけでなく、バランスの取れた基礎力に裏打ちされた潜在能力や学習意欲の有無まで含めた「力」を正確に見極め、見出すことも念頭に置いて作成している。個々の設問形式は異なるが、すべてに共通するのはコンテキストの重要性である。長文のみならず会話文や客観問題で扱う各英文も、実際に使用される英語であり、素材としてイメージが明確で把握しやすいものを選んでいる。極端に言えば、理解できて当然の内容であるとも言える。理解できないと感じた場合は、問われている一点のみに注目するのではなく、それが置かれているコンテキスト全体に目を向けることで、さまざまな手がかりが得られるはずである。意欲を持って取り組んでほしい。